



虫調査会

ジュンサイを残そう市民の会

2023年2月5日(日)

例年一般の参加者を募集して『虫観察会』を実施していますが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会員による調査のみ行いました。

講師

日本甲虫学会会員 宮内 博至氏

(ジュンサイを残そう市民の会会員)

確認された主な虫

調査場所：じゅん菜池緑地 自然環境ゾーン 管理地内
2023年2月5日10時～12時 参加者32名

昆虫

- クサギカメムシ
- エサキモンキツノカメムシ
- ミヤマカメムシの仲間
- ネグロミノガの蓑
- マツカレハの幼虫
- ガ類の蛹
- マダラマルハヒロズコガの幼虫
- トホシテントウの幼虫
- キヨクビナガハムシ
- ヒゲフトゴミムシダマシ
- ニホンキマワリの幼虫
- ゴミムシダマシ科の幼虫
- クワガタムシ類の幼虫
- 甲虫類 (ニホンキマワリ?)

秋に羽化した後らしく、中には何もいませんでした

クモ類

- カレハヒメグモ
- ヤマトフクログモ
- アズマヤチグモ
- アサヒエビグモ
- キハダカニグモ
- マミジロハエトリ
- ミスジハエトリ
- メスジロハエトリ
- アダンソンハエトリ
- ヤサアリグモ

本種を含むフクログモのなかまが20頭以上もみつかりました!

クモがたくさんいました!



これから昨年晩秋に巻いたこもを外していきます



吸虫管

吸虫管などを使って虫を捕獲



こもを外し、中にある虫を探します



講師に丁寧な解説をして頂き、たくさんの虫がいることを確認しました。(中央右側：宮内講師、左端：ピンチヒッターでクモ類を解説していただいた加藤輝代子氏。本会のクモ観察会講師)

昨年10月30日の「秋の虫調査会」時に、管理地内に生えているいろいろな木に「こも巻き」をしました。今回こもを外し、中にどんな虫がいるか、調査を行いました。

こも巻きは、江戸時代から続く晩秋の風物詩です。秋の終わりに、松にこも(藁などで編んだむしろ)を巻き付けておくと、越冬のために虫がこもの中に入ります。春先にこもごと燃やし、中にあるマツカレハ(マツケムシとも呼ばれる)などの松の害虫を防除します。

今回調査したところ、こもの中からはクモなどのたくさんの虫が出てきました!

また、こも巻き以外に朽ち木や藪などを調べたところ、クワガタムシ類の幼虫やトホシテントウの幼虫などが確認できました。

確認された虫類写真集

カメムシ

危険を感じると臭いニオイを出します!



クサギカメムシ



ミヤマカメムシの仲間



エサキモンキツノカメムシ

メスは卵が孵化するまで抱えて守る。背中にはハートの模様。

ガ類



巢の形がそれぞれ違って面白いですね。

マダラマルハヒロズコガの幼虫

ネグロミノガの蓑



マツカレハの幼虫



ガ類のさなぎ

朽ち木の中にいました



クワガタムシ類の幼虫



朽ち木



ニホンキマワリの幼虫



ゴミムシダマシ科の幼虫



甲虫類
(ニホンキマワリ?)

クモ



キハダカニグモ

一生のほとんどを木肌で暮らします。



カレハヒメグモ



アダンソンハエトリ

こもや朽ち木の中などにいた虫を、虫メガネなど使いながら観察しました。さまざまな虫の冬越しの様子を観察できました。今度は敷き藁での観察もしてみたいですねとお話がありました。楽しみですね。